

18. 脂質異常症になるとどんな症状が現れてくるのでしょうか？

血液中のコレステロールやトリグリセライドなどの脂質が、わずかに異常となっても症状として現れてこないのが普通です。脂質が極端に高くなったり、低くなったりすると様々な症状が現れて来ます。

コレステロールやトリグリセライドなどの脂質は、身体にとって必要な成分です。コレステロールはホルモンを作る材料です。また、身体を構成している細胞の膜を作るためにも必要です。肝臓ではコレステロールを製造し、全身にコレステロールを供給しています。古くなったコレステロールは肝臓が回収し、胆汁酸に改造して、胆道から小腸の中に流しています。胆汁酸は食事のなかの脂溶性の栄養分の吸収に使われています。

コレステロールが増加し過ぎると、皮膚や筋肉、血管の壁の中に溜まってきます。皮膚にコレステロールが溜まってくると、黄色がかった隆起物あるいは発疹状のものが現れて来ます。これを黄色腫と云います。コレステロールが溜まりやすい場所があります。眼瞼の鼻側に出来易く、眼瞼黄色腫と云います。アキレス腱にも溜まり易く、かかとの所を触ってみて、1cm以上に腫れている時は、アキレス腱黄色腫の可能性もありますので血液検査を受けてみたほうが良いでしょう。

黄色腫は肘、臀部、膝、手指、手のひらなど、関節部に多いのですが、そのほかいろいろな場所に現れてくることがあります。黒目と白目の境に白いリングを見ることもあります。角膜輪と云います。

血管の壁にコレステロールが溜まって隆起物を形成すると、外からは見えないのですが、血管内視鏡で観察することが出来ます。この状態では、血液の流れが滞り、めまいや狭心症、腹痛、歩行した時の下肢痛などとして症状が現れて来ます。これは動脈硬化と呼ばれています。

トリグリセライドは中性脂肪とも呼ばれているように、一般に脂肪と呼ばれているものです。身体ではエネルギー源として利用されます。保温やクッションの役割もしています。皮下にたまったものは皮下脂肪と呼ばれ、腹部に溜まった脂肪は内臓脂肪と呼ばれています。肝臓にトリグリセライドが溜まり過ぎると脂肪肝と云います。

血液中のトリグリセライドが非常に増加した高トリグリセライド血症では、急性膵炎を引き起こし腹痛が現れてくることがあります。赤い血液が白く濁ってきます。そのため、眼底検査で眼底の血管が白く見えてきます。皮膚に発疹状の黄色腫が現れることもあります。

コレステロールやトリグリセライドが異常に低過ぎる場合には、疲れやすい、貧血などの症状が見られます。